

## ミニデイ【おとこの台所 桜新町だより】

発行責任者 桜新町広報：柏木君夫、岡元正史

### ●納涼話。

子供の頃、真夏になると、映画やテレビの落語で怪談話が演じられていました。ある日、町人が堀で釣りをしていると大漁でした。良い気分ですと帰ろうとすると、堀の中から不気味な声が…。町人は怖くなり、逃げるように家に帰りました。そして恐る恐る魚籠を覗くと、釣った魚が1匹残らず入っていませんでした。不気味な声は「置いてけ～」と言っていたのです。



よく使う言葉「置いてけ堀にする」の語源とされています。

**蚊帳。**夏、祖父母の家に行くと蚊帳があって、見たことがない蚊帳が楽しかった。我々より若い世代は「蚊帳の外」の語源の蚊帳を見たことがないでしょう。

**風鈴。**金属製、陶器製、ガラス製など。ビードロ（ガラス）は江戸時代に日本へ入ってきて、「江戸風鈴」が人気になりました。町人に人気だったのは金魚の柄。武士に好まれたのは、獲物を素早く捕らえ後ろに退かない蜻蛉（トンボ）でした。

**土用のうなぎ（鰻）。**天然鰻の旬は初秋から冬で、一番美味しい時期です。江戸の庶民は鰻の旬を知っていたので、夏の鰻料理屋は閑散としていました。困った店主は、平賀源内に知恵を求めます。源内は「本日、土用丑の日」と看板を出すことを提唱して、店は大繁盛したと言います（話の真偽は分かりません）。

一方の**ドジョウ（泥鰌、鰌）**は、夏が旬。江戸時代は「どぢよう」「どじよう」と呼ばれていましたが、今も駒形にある老舗が、四文字は縁起が悪いと「どぜう」の三文字にしました。料理法は、丸のままのドジョウと小口切りのネギを煮るだけの「丸鍋（写真）」。「柳川鍋」はドジョウを開いて牛蒡と煮て、生卵で綴じます。

### ●納涼に観るホラー映画（流血も殺人もありません。心理的に怖い名作です）。

「**シャイニング**」（スタンリー・キューブリック監督：1980年公開）

ロッキー山上のホテルは雪深く冬は休業。真冬の管理人を任されたジャック・ニコルソンが、雪に閉ざされたホテルで段々と精神を蝕まれて狂っていく怖さです。

「**マタンゴ**」（本多猪四郎監督：1963年公開）

真夏、若い男女7人の乗ったヨットが無人島に漂着。食べるものはなく、唯一あるのは食べるとマタンゴに変身する「毒キノコ」。さて、食べるか、食べないか？

### 7月の定例会

参加者は、7日（木）は13名、8日（金）は13名でした。

### 8月の定例会

コロナの拡大により、止むなく活動を自粛します。